

平成25年度第1回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会
会議録

1 日時：平成25年8月27日（火）午後2時01分～午後4時04分

2 場所：千葉市議会棟 第4委員会室

3 出席者：

(1) 委員

大原明保委員（部会長）、河合謹爾委員（副部会長）、善積康夫委員、古賀学委員、
西田直海委員

(2) 事務局

渡部経済農政局長、神谷経済部長、今井経済企画課長、川島集客観光課長

4 議題：

(1) 部会長及び副部会長の選任について

(2) 千葉ポートタワーにおける指定管理者年度評価に関する事項について

(3) 千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場における指定管理者年度評価
に関する事項について

5 議事の概要：

(1) 委員の互選により、大原委員を部会長に、河合委員を副部会長に選任した。

(2) 千葉ポートタワーにおける平成24年度の年度評価についての審議を行った。

(3) 千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場における平成24年度の年
度評価についての審議を行った。

6 会議経過：

【事務局】 お待たせいたしました。本日はお忙しい中、お集まりいただきましてま
ことにありがとうございます。それでは、定刻となりましたので始めさせていただきます。

私、本日の司会を務めます経済企画課課長の今井でございます。どうぞよろしくお願
いいたします。失礼いたしまして着席して進めさせていただきます。

それでは、議事に入ります前に資料の確認をさせていただきます。配付資料は一部事
前に送付させていただいておりますが、資料1、委員名簿、資料2が「千葉ポートタワ
ー指定管理者評価資料」、及び資料3「千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場
指定管理者評価資料」、そして参考資料1・2でございます。不足がございましたらお知
らせ願います。よろしいでしょうか。

それでは続きまして、会議の成立についてご報告いたします。本日は、委員5名の皆
様全員にご出席いただいておりますので、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に

関する条例第 10 条第 2 項により、会議は成立いたしております。

次に、会議の公開及び議事録の作成についてですが、お手元の参考資料 1 「千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等について」をごらんください。これは平成 22 年 7 月 27 日の委員会における決定事項ですが、一番下段の「3 部会の会議への準用」にございますとおり、部会にも準用されることとなっております。したがって、**「1 会議の公開の取扱い」**の(1)のとおり、本日の会議は公開となります。なお、現在までに傍聴の申し込みの方はございませんので、あわせてご報告をいたします。また、議事録につきましては、**「2 議事録の確定」**の(1)のとおり、事務局案に対する部会長の承認により確定することになっておりますので、よろしくお願いたします。

それでは、開催に当たりまして、経済農政局長の渡部より一言ご挨拶申し上げます。

【経済農政局長】 経済農政局長の渡部でございます。本日はお忙しい中、観光部会にご出席いただきましてありがとうございます。

本年度第 1 回の部会ということでございますので、本日は、部会長並びに副部会長の選任、そして当観光部会所管の千葉ポートタワー、それから千葉市ユース・ホテル、昭和の森キャンプ場の指定管理に対する平成 24 年度の年度評価の実施をしていただくこととなります。どうか委員の先生の皆様方それぞれのご専門の立場から忌憚のないご意見を頂戴いたしまして、今後の施設の管理運営に反映させてまいりたいと存じますので、本日はどうぞよろしくお願いたします。

【事務局】 次に、委員の皆様をご紹介申し上げます。お手元の資料 1、千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会の委員名簿をごらんください。名簿順に産業部会の委員の皆様をご紹介させていただきます。

まず、常任委員からご紹介いたします。弁護士の大原明保様でございます。

次に、公認会計士の河合謹爾様でございます。

最後に、千葉大学法経学部教授の善積康夫様でございます。

次に、当部会の臨時委員をご紹介いたします。松蔭大学観光メディア文化学部教授の古賀様でございます。

次に、千葉大学非常勤講師、D r o p s 主宰の西田直海様でございます。

以上 5 名の皆様でございます。どうぞよろしくお願いたします。

次に、事務局の職員を紹介させていただきます。なお、渡部経済農政局長につきましては、先ほどの挨拶をもって紹介にかえさせていただきます。

次に、8 月 1 日付人事異動に伴い総務省より着任をいたしました経済部長の神谷俊一でございます。

【経済部長】 神谷でございます。よろしくお願いたします。

【事務局】 そのほかの職員につきましては、お手元にお配りしております座席表により紹介にかえさせていただきます。

それでは、議事に入らせていただきます。なお、部会長選任までの間、私のほうで進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いたします。

ただいまから平成 25 年度第 1 回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部

会を開会いたします。

初めに、議題（１）部会長及び副部会長の選任についてに入ります。

部会長及び副部会長につきましては、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例第 11 条第 4 項に基づき、委員の皆様の互選により決定したいと存じます。委員の皆様、いかがいたしましょうか。

【委員】 前年度のご経験もおありだと思いますので、部会長を大原委員さん、副部会長を河合委員さんをお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

【事務局】 それでは、ただいま善積委員さんより、部会長に大原委員さんを、また、副部会長に河合委員さんをとというご発言がありました。いかがでございましょうか。

（「異議なし」の声あり）

【事務局】 よろしゅうございましょうか。ありがとうございます。

それでは、大原委員さんに部会長を、河合委員さんに副部会長をお願いしたいと存じます。

それでは、大原部会長に議事の進行をお願いいたします。

【部会長】 それではまず、本日の議題の流れについて、事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、議事の流れについてご説明をいたします。

本日は、千葉ポートタワー、千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場の年度評価についてご審議をいただきます。年度評価は、今後の管理運営をより適正に行うため、各年度の終了後、市が履行状況を確認し、それを選定評価委員会に報告するとともに、意見を聴取するものでございます。

本日の議事の流れですが、まず、施設所管課であります集客観光課から、施設の評価に係る資料についてご説明いたします。次に、委員の皆様から質疑応答とともに、管理運営のサービス向上や業務効率化の方策、評価する点、法人の財務状況などにご意見をいただき、それらを事務局のほうで意見案として取りまとめ、ご説明いたします。なお、意見案を取りまとめている間は、委員の皆様には休憩をいただきます。そして、意見案をご協議いただき、最終的に部会の意見として決定していただきます。これを議題順に、千葉ポートタワー、千葉ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場の順に繰り返します。

なお、平成 22 年度の委員会におきまして、部会の議決事項を委員会の議決事項とする旨、決定しておりますことから、ここでご協議いただきました意見は、委員会として市に答申していただくこととなります。

また、当該意見につきましては、評価シートの「6 経済農政局指定管理者選定評価委員会の意見」欄に掲載されまして、ホームページ等で公開されます。

説明は以上でございます。

【部会長】 それでは、議題（２）千葉ポートタワーにおける指定管理者年度評価に関する事項についてに入ります。

事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 集客観光課長の川島でございます。よろしくお願ひします。座って説明させていただきます。

それでは、お手元の千葉ポートタワー指定管理者の年度評価について、資料に基づきましてご説明をさせていただきます。指定管理者評価シートをご用意ください。A4の縦のものでございます。評価シートにつきましては、平成24年度事業報告書、そして毎月の月次事業報告書及び年3回モニタリングをしてございますけれども、こちらに基づきまして作成しております。

初めに、基本情報として施設管理者でございますが、株式会社三越環境ビル管理、指定期間は平成23年4月1日から平成28年3月31日までとなっております。

2番目、管理運営の実績についてでございます。(1)主な実施事業でございますが、管理運営、維持管理業務などの指定管理事業と、3階のラウンジ運營業務、1階売店での物品販売業務、こちらのほうの自主事業がございます。

(2)利用状況でございますが、有料の利用者数は8万7,752名、前年比でございますと119.5%、目標達成率は76.8%でございました。前年の平成23年度につきましては、東日本大震災の影響を受けまして、2カ月間のエレベーター使用禁止などがございまして閉館しておりました。震災発生前の平成22年度の利用者数は9万6,036名となっております、これを比較いたしますと91.3%でございます。ほぼ回復している状況ではないかというふうに考えております。

(3)収支状況でございますが、①の収入実績は、利用料金収入が計画比75.2%と下回っておりますが、自主事業収入は103.3%と、計画予算を達成いたしております。②支出実績は、イベントの増加により事務費が増えておりますが、その他経費が縮減され、支出全体では93.7%、収支実績は約550万円の黒字となっております。黒字になったことで、年次協定書第3条「大幅な利益の還元」に基づきまして、500万円を超えた部分の50%、具体的には26万9,424円でございますけれども、こちらが寄附金として千葉市に還元されることになっております。

次のページをお願いいたします。(4)、(5)の指定管理者が行った処分件数及び市への不服申し立て等はございません。

(6)情報公開の状況でございますが、公文書開示請求が1件、市政情報室経由でございました。

3番目、利用者ニーズ・満足度等の把握について、①のアンケート調査の結果については、2,944人の回答が得られました。集計方法は、アンケート箱の常設、それからスタッフから入館者への声かけなどをしてございます。また、アンケートの質問項目については次のとおりでございます。

②調査の結果として、利用満足度は、満足以上が79%、従業員の対応は83%、それから施設の清掃状況が78%の満足以上というふうな結果が出てございます。

③アンケートによる意見、苦情への対応については、記載のとおり、ご指摘いただいた事項に対して可能な限り迅速に対応、検討しております。

(2)市に寄せられた意見、苦情等はございませんでした。

4番目、指定管理者による自己評価でございます。施設運営では、季節に応じたイベント等の積極的な開催により集客強化策に努めたこと、また、季節に応じた物販の品ぞろえや陳列を加え効果を上げたこと、設備の日常点検、定期点検を通じ施設の維持管理

に努めたことなどが挙げられております。引き続き入館者拡大策と自主事業の施策が連動した形で運営していきたいと報告を受けております。

次に5番目、市による評価でございます。まず、履行状況の確認状況についてでございますが、お手元の資料、1枚めくっていただきまして、別紙でA3判の資料、指定管理事業対照一覧表のほうでご説明をさせていただきます。

(1) 市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理についてでございます。①関連法令等の遵守（個人情報・情報公開）についてでございますが、管理運営の基準に従い、みずから個人情報保護規程を策定し、ホームページで公開をしております。また、新規雇用者を含め従業員に「個人情報の取扱いに関する誓約書」を提出させるなど、適正に対応しております。ともに評価としては2と評価させていただきました。情報公開規程の策定についても適正に対応しているため、こちらも2の評価といたしました。

②関係法令の遵守（行政手続き）についてでございますが、こちらも①と同様に業務マニュアルの作成、その公開状況についても問題点は特に見当たらず、年3回、具体的には7月、12月、3月に行いましたモニタリングレポートによる評価でも問題なしとの判断をさせていただいて、2の評価をさせていただきます。

③モニタリングの考え方についてでございますが、入館者へのアンケート調査の実施をしているものの、来館者数とアンケート回収数に大幅な開きがございます。従業員による聞き取りも行ったものの、回収率は向上していないので、この点については評価を1とさせていただきます。アンケートの協力依頼については、回収方法の見直し、協力者へのノベルティーをつけるなど、指定管理者と協議しながら工夫をしていきたいと考えております。また、ホームページ上での要望・意見聴取は常時行っており、適正に行われていると判断し、2と評価させていただきました。

恐れ入ります、次のページをお願いいたします。(2) 市民サービスの向上、①利用者サービスの向上、②利用者への支援については、前年同様に、適切な管理運営体制が実施されていると判断いたしまして、2の評価をさせていただきました。

(3) 施設の効用の発揮、施設管理能力についてでございます。①利用促進の方策についてでございますが、道の駅等へのパンフレットの配架、ホームページのイベント情報の適宜更新、地域情報誌など広報メディアへの情報発信に積極的に取り組んで、また、千葉ポートパーク周辺施設利用促進連絡協議会構成員間の情報共有も行き、周辺地域の活性化に向けて積極的な活動をしているため、3の評価をさせていただいております。

次のページをお願いいたします。②施設の維持管理、③利用料金の設定については、管理運営基準や事業計画に従い遵守されているため、2の評価をさせていただきました。

④自主事業の効果的な実施についてでございますが、恋人の聖地事業の展開状況は、昨年度に施設を設置、認定をしたものの、集客やプロモーションに効果的な施策が実施できていないため、1と評価させていただいております。

次に、1階売店及び3階ラウンジの運営状況は、1階物販事業は目標比102.9%、3階ラウンジ事業は目標比が104.9%と、計画どおりであったことから、3と評価させていただきます。

次に、イベントの実施状況でございますが、季節ごとにイベントを実施し、冬花火等

の新企画、周辺の施設、具体的には千葉県立美術館、日本赤十字社千葉県支部と連携した東日本大震災記録写真展を展開したことを3と評価させていただいております。

マスコットキャラクターの展開状況は、ぼーとくんやちーぼくんの関連グッズの商品ラインナップを増やし、売り上げにつなげている点を3と評価いたしました。今後は、ぼーとくん自体の露出強化に期待しているところでございます。

次のページをお願いいたします。(4)管理経費の縮減でございます。①支出見積の妥当性でございますが、ソフト事業の展開が増え、イベントの諸経費が増加したものの、管理費、その他経費等が減少し、支出全体ではほぼ計画どおりとなっているため、2の評価をさせていただいております。

②収入見積の妥当性でございますが、利用料金収入は計画比75.2%となっているため、1と評価しております。自主事業収入は、利用者数が減少しているにもかかわらず計画比103.3%と予算を達成しているため、3と評価させていただいております。

以上の評価により、市の評価といたしましては、利用者数及び利用料金収入は計画比を下回っているものの、自主事業は目的を達成し、収支も黒字であり、アンケートによる評価も約8割のよい評価を受けていることから、おおむね良好に管理運営が行われたと判断し、評価はAとさせていただいているところでございます。

説明は以上でございます。

【部会長】 ただいまの説明に対して何か質問、意見等がありましたら、発言をお願いします。意見につきましては、後ほど事務局において部会の意見ということで取りまとめをお願いします関係で、意見であることを明確にし、他の質問等の発言とは区分して発言いただきたいと思います。

それでは、何か発言がございますでしょうか。

【委員】 意見ではなくて確認なのですが、評価シートの2ページのアンケートのところですが、無効回答が集計枚数の1割を超えています。集計枚数が3,321、無効回答が377となっており、無効回答の割合が多いように思ったのですが、どういう理由で無効回答になったのでしょうか。それが1点。

もう1つは、ここのアンケート調査の実施内容のところの回答者数と、事業報告書18ページのモニタリングの状況における有効回答数の合計数とを比較すると、数字が違います。両者の関係を教えていただければと思います。よろしくをお願いします。

【部会長】 集計した中で無効回答が377、何をもちいて無効回答というのかという質問、それが第1点。

【事務局】 ちょっとお待ちください。済みません。

申しわけございません。この無効回答の部分については、おそらく、アンケートの中で何かが欠如しているのだと思うのですが、ちょっと具体的な例示を把握しておりませんので、改めて調べてご連絡というかご提供したいと思います。

【委員】 全部回答していないアンケートは除いた可能性があるということですか。

【事務局】 はい。ただ、済みません、そこは確認させていただかないときちっとお答えできないかと思っておりますので、済みません。

【委員】 はい、わかりました。

それから、事業報告書の 18 ページの数字ですか、これも利用アンケートのデータですよ。その集計した数字と評価シートの 2 ページのところの数字がかけ離れていますが。

【事務局】 ちょっと確認をさせていただくようになるんですけども、毎月毎月アンケートの報告をタワーからいただいでいて、そのトータルを毎月の合算をしていくと、この 2,900 という数字を出させていただいておりますので、ちょっとおそらくこれも確認なんですけど、18 ページのほうが誤りになるかとは思いますが。

【委員】 18 ページのほうが誤りということですね。

【事務局】 はい、ちょっと数字が大分ここは高くなってしまっているのです。

【部会長】 18 ページのほうが間違いであろうかと思うということですね。

【事務局】 はい、申しわけありません。

【部会長】 じゃあ、ちょっとそういうことの関係で関連して尋ねますけれども、評価シートの 3 ページ目に履行状況ということで 1、2、3 という評価数字が入っていますけれども、この一覧表と 2 カ所が違うんですけども、どちらを正しいというふうに、一覧表のほうが正しいとすれば、この 3 ページ目のモニタリングの考え方、利用者アンケートの実施・分析の状況、ここは 1 になるわけですね。

【事務局】 はい、1 です。

【部会長】 それと、(3) の利用促進の方策、報道機関や情報雑誌への情報提供、これは 2 になっていますけれども、これは 3 ということですか。

【事務局】 3 と。申しわけございません。

【部会長】 ほかにご発言お願いいたします。

【委員】 財務諸表ってございますよね、後ろのほう、別紙 2-1 の「平成 24 年度千葉ポートタワー管理運営業務収支報告書」、これは毎月出されていると思うんですが、まずは、何件かあるんですが、人件費とか委託費というのは、当然人件費を減らして委託費を増やすという政策を期の途中でやられると、こういう変更が起こるのは当然ですが、こういうことについては、事前でも事後でも市のほうにはご説明があるんでしょうか。こういうふうに変えていくんだと、いわゆる予算の方法とは決算の途中、当然こう変わってくると思うんですけども、終わった後か事前かはわかりませんが、何らかのご説明があるんでしょうか。こういう委託費を増やして職員の人件費を減らすような方法をとるとか、事務管理費が企画管理、総務管理、人事課の会計管理とかと、これは明らかに本社のほうの管理のほうに委託して、それをそこで払うという形に処理をしたんだと思うんですよ、こういう処理が出てくるということは。そういうことは何らかの形で、これは決算が終わるまで何も説明はないというふうに理解したほうがいいでしょうか。

【事務局】 そうですね、決算まではないです。

【委員】 何もない。決算になると一括してこういうことですよという説明があるんですか。

【事務局】 はい、この表をもって提出のときにヒアリングをさせていただいて、説明しております。

【委員】 ヒアリングのときに向こうから説明があると。

【事務局】 はい。

【委員】 大体今私が言ったようなことを説明されたんですか。要するに、費用の発生を、実態がちょっと最初の予算のときとは違って、こういう形に変えたからこういう数字になりましたという説明があったわけでしょう。

【事務局】 数字に対する説明はあるんですけども、例えば、イベント費用がかさんだからといって人件費を落としているというところではなくて、実態に即した形で最終的に数値がこうなったということの説明はいただいています。

【委員】 イベントはこの千葉ポートタワーにとって一番重要なことですから、これはそういうふうにされたんだと思うんですけども、人件費とか本社に対する事務管理費みたいな形の費用等は、説明が最後のときにヒアリングであるということですね。

【事務局】 そうですね、はい。

【委員】 それと、先ほど減価償却費というのが突如ここに95万3,824円というのが出てきたんですが、減価償却費というのはそもそも過去に資産として計上したものを償却する形でとられると思うんですが、この収支報告書にはそういう資産の購入、例えば備品の購入等は、購入時点で全額費用で落ちているように処理だと思っているんですが、こういう突如出てくるので、これは何だろうかなど。ご説明いただけるとありがたいんですが。

【部会長】 減価償却費は、これはどこにその数字が計上されているのか。何ページですか。

【委員】 この財務諸表という……あ、財務諸表の前だな、ごめんなさい、事業報告書の一番最後です。事業報告書の別紙2-1。その1つ手前、そこです。

【部会長】 23ページまでページが打ってあって、24ページ目ということですね。

【委員】 そうですね、23ページの次ですね。

【部会長】 ちょっと待ってくださいね、どこに減価償却費という項目が出ているんですか。

【委員】 事務費の下のほうの、食糧費とか手数料とか減価償却費というものが。

【部会長】 わかりますか、減価償却費が計上されているけれども、当該年度で取得したものにしか減価償却費の計上対象の物品はないんじゃないかというようなことが前提になるわけですね。

【委員】 資産勘定は出てこないでしょう、基本的に法人の支出で。いかがですか。

【部会長】 ここはだけど、承継しているんじゃないの。これ、わかりますか。

【事務局】 一応、備考のところには社用車と書いてありますが、車の減価償却が入っているようなんですけども、それとあと券売機の減価償却費として一応ここでは書いてございます。

【委員】 入っているということですね。例えば車を3年で、まあ4年でもいいですが、償却するとして、4年に分割して計上をしてよろしいということですか。

【事務局】 そちら辺の数字の計上方法についてと、それから車をいつ買ったかとかもちょっと今把握しておりませんものですから、そちら辺、わかるようなものをちょっと問い合わせしてみても、どんなふうに減価償却していくか。

【委員】 ええ、会計の処理の方法もご検討いただきたいなと思います。

それともう1点、この表を見て一番最初に目立つのが修繕費ですよ。前々からいろいろなほかのところもそうですが、修繕費の予算額と、決算額が著しく少ないということで、市としてはそれはヒアリングの結果、よろしいという形になったのかどうか、ご判断をお聞かせいただきたいんですが。

【事務局】 修繕費につきましては、まず参考としてなのですけれども、その前年23年度については約460万ほどかかりました。それは電話の設備であったり中央監視、あと屋上の塗装などの修繕としてかかりました。24年度については、1階のイベントシアターというところがあるんですけども、その改修工事の費用として計上してあるものでして、ただそれだけの修繕だけしか行っていないというわけではなくて、空調機の大規模修繕などを行っているんですけども、それは別途500万以上の修繕費用がかかっているため、県市で負担をさせていただいて修繕を凶っておりますので、必要な修繕については計画どおりしているということで、今回はこの決算で進んでおります。

【委員】 ヒアリングの結果、適正な修繕はなされているというご判断をされたということによろしいんですね。

【部会長】 それに関連して、予算でこれだけ多くのものをとっておいたのは、それはどうしてなんですか。今、幾らかを超えるものであるから、この予算を使ったんじゃないかと、ほかからの費用を充てたということでしたよね。これだけ予算があるのに、この予算には手をつけずというか、何か理由があるんですか。

【委員】 最初の計画の修繕費の中身は検討されていますかということです、逆に言うともね。500万以上の件で、ですから規程どおり市が貸しました、それはよろしいんですけども、その1,150万の予算額には、当然中身の大きい項目、小項目がいろいろ書かれているんじゃないかと思うんですけども、そのときの検討はないということなんですかね。結果が適正であるということは、最初に予算を上げたときには何もなかったのか、検討されなかったのかということしか考えられないですよ。

【部会長】 今言ったように、その前年度が460万実績のところを、予算を1,150万にしたというのは、このとき、この修繕は考慮されていたのか、いなかったのか。

【事務局】 考慮はされてないです。

【部会長】 されてなかった。

【委員】 維持管理業務で一番数字の振れる可能性が一番高いのが修繕費ですよ。だから、修繕費というものを最初の予算の段階からどのくらいまでのことはするんだという管理がされないという適正ではないんじゃないかなという指摘をさせていただいているんですが。

【部会長】 この差額数字1,055万幾らというのが、これは評価シートにあるところの管理費に入るとすれば、ここは計画比実績70.3%になっていますけれども、ほとんどこれは管理費が計画額よりも少なかったというのは、この修繕費が予定されていたものを執行しなかった。それでよかったならいいんですけども、ただし500万以上だから市が負担しているということになるんじゃないんですか。

【事務局】 差额的にはそんな感じになってしまいますよね。

【部会長】 ほかにどなたかご発言ございますでしょうか。はい、どうぞ。

【委員】 戻っちゃうんですけれども、意見なんですかね、アンケート調査のやり方と中身で、従業員の人が聞き取り、多分集計もこれはみんな会社でやっているのではないかと思うんですけれども、やっぱり第三者が一度や二度きちっとやって評価しないといけないのではないかなと。それから、中身ももうちょっと具体的に、何をというところまで聞く必要があるのではないかなという気がします。まあ、お金が多少かかるかもしれないけれども。よくレストランなんかでも入れるようなものがありますけれども、あんまりやらないですし、自分が頼んだものだからおいしいに決まっているというような感じになっちゃうと思うので。それから、面と向かって本人がいるとなかなか悪いことは言えないので、やはり第三者が例えば出口で、出口調査じゃないんですけれども、出るときにきちっと聞くとか、そういうようなことをやらないと、あまりアンケートの意味がないのではないのかな。今、満足、大満足で大体 80%くらいある、これは多分合格点になると思うんですけれども、疑うわけではないんですけれども、ほんとうかなという気がしなくもないですね。

ですから、今まとめますと、アンケートのやり方を少し検討する必要があるのではないかということと、内容ももう少し深く聞き取る必要があるのではないかなということです。

それからあと、イベントと結びついた利用促進というか、利用促進と言っているのか、集客というか、いかに人を集めるかという工夫がパンフレットやチラシ、ホームページをやったというだけではちょっと出てこないのではないかなと思うんですね。やっぱり打って出ていくとか、あるいは組織的に中の組織を積極的に集客に対応できるような仕組みに変えていくとか、窓口の一本化とか、いろいろやはり集客しやすい体制とかあるのではないかと思うので、その辺は全くわからないので、もしやっていないなら、そういうところから集客という意味でしっかりやっていく必要があるのではないかなと思いました。

それから、イベントと集客をしっかりと絡める。このイベントに関しては、それぞれのイベントごとにやはり目標値をしっかりと定めて集客していくと。それぞれが成功したかしないかということもしっかりと確認しておく必要があるのではないかなと。その1つが恋人の聖地だと思うんですね。あれはかなりお金をかけてつくっていると思うんですね。それが全く使われないと。まあ前回やったときに僕は何も言わなかったんですけども、あまりあれは効果がないと思って、なぜやったのかと、やるなら自分で自主的にそういうのをやったらいいのではないかなと思ったんですけれども。というのは、実はあれ、つくったときから知ってまして、あれは要するにブライダル会社の1つのコマーシャルイズムでやったという、そういうのがあって、その後にフォローは多分ないと思うんですね。ホームページに載っけてもらえるだけとか、そういうものしかないと思うので、もう少ししっかり、やったからにはやるか、あるいはもうやめて、しっかり自主的にやっていくか、どちらかしっかり考えたほうがいいと思いますね。あれは毎年お金が多分かかっていると思いますね。看板を返せというのなら、多分やめると看板を返さなきゃならないんですけれども、効果がないんだったら、やる気ないんだったら、もう返しちゃったほうがよろしいのではないかなという気がしました。

それからあと、イベントもやはり周辺と連携したイベントをもっともっとやっていいんじゃないかなというの、オークラ千葉ホテルとの連携というのもありますけれども、もうちょっとこういったものをしっかりと、周辺の美術館だとか。まあこれは後の話になるんですけども、ユース・ホステルのほうでは結構文化的なイベントを森の中、自然の中でやられているのは大変評価できると思うんですけども、ポートタワーだから、施設だからということではなくて、文化的なものとか、もうちょっと広くいろいろイベントを、あるいは今の時流に合ったようなイベントを企画する必要があるのではないかなという感じがしました。

以上でございます。

【部会長】 字句の点で確認しておきますけれども、評価シートの3ページの市による評価の中で、2行目のところに「自主事業費は目標を達成し、」という、自主事業費だけど、この言葉でもおかしくないのかもしれないけれども、わかりやすくするためには、プラス評価にいくわけですから、自主事業収入という、この差額のほうの収入は目的を達成しという言葉のほうの方がよろしいんじゃないかと思うんですけども。それが1点。

同じ字句の問題として、この一覧表の最後の確認項目で、「収入見積の妥当性」というところの「自主事業収入は計画通りか」というところの評価の欄に、「利用者数が落ちているにもかかわらず、」というふうになっているんですけども、ここは自主事業収入という言葉を使っているから、それはいいんですけども、何との比較で利用者数が落ちているのか。前年度からだともう利用者数は増えているわけですね。だから、ここは誤解を招く表現だと思うので。これは多分、計画数のはずですと、落ちているという言葉が、達しなかったという言葉が適切んじゃないかと思うんですけども。

どうですか、意味を明確にするためにはそういうふうに、計画数に達しなかったけれどもという言葉。それと評価シートのほうは、自主事業収入という言葉にかえたほうがいいと思います。

【事務局】 はい、ありがとうございます。

【部会長】 それとその関連で、確認事項の最後の(4)管理経費の縮減というところで、①が「支出見積の妥当性」、②が「収入見積の妥当性」というタイトルで書かれているんですけども、このタイトルだけ見ると、見積もりの妥当性、見積もりが合っていたかどうか、見積もりが間違っていたかというようなことでの評価になるように思われる、確認する事項がね。ところが中身を見ていくと、結局、計画どおりに達成されたか、達成度をはかって、達成しました、上回りました、達しませんでしたというところにつながっていくわけなんですよね。ですから、この確認事項の表現、確かに結果に対して見積もりが正しかったかどうかという点も1つの確認事項なのかもしれませんが、一旦もう見積もりという形で事業計画として載ってしまっただけ以上は、その事業計画を達成できたかどうかということだけが確認事項になるということですので、「見積の妥当性」という言葉はちょっと誤解を招く、計画の達成度という言葉に確認事項の表題、タイトルを変えたらどうかという提案なんですけれども。

【事務局】 済みません、いただいたご意見なんですけれども、一応お伺いして、また伝えたいと思うんですけども、実はこれは全庁的にこういった表現でもって整理

をされているようでございますので、済みません、このところはちょっとお答えはご容赦いただいて、その旨、話をしたいと。

【部会長】 いや、ほかの事業もみんなこういう形の確認事項のタイトルになっているんですけども、たまたま、何回かやっているうちにちょっとおかしいんじゃないかと気づいたので、この場面で申し上げました。

【事務局】 申しわけございません。

【部会長】 いいえ。

ほかにご意見。はい、お願いします。

【委員】 先ほど古賀さんのほうからお話があったアンケートのこととかあって、去年の議事録を読んでから来ました。やはり去年も同じようなお話をされていたと思うんですね。で、何回かそういう第三者のアンケートというか、きちんとした調査をしたほうがいいんじゃないかというお話があったと思います。今年も評価委員会をやって、去年もやって、やはり去年のものが今年に生かされていないというのはどういうことなのかというか、ただ年度の評価をしますというところで、去年いろいろと反省点とかあったところというのをどうやって次年度に、指定管理者だけじゃなくて市も一緒になってもっといい方向に向けてきたかというところが知りたいなというふうに思ったんですけども。

で、先ほどの恋人の聖地のところにしても、つくるのに多分 800 万か 900 万ぐらいかかっていたと思います。議事録でそんなふうには書かれていたんじゃないかなと思うんですね。それで来年度に期待をするというふうには書かれていたと思います。それで評価としては 1 だと、そのプロモーションが足りないというところで評価をしていますけれども、そのこのところというのは、大体そんなにそれをつくったからって来るかどうか、それほど確実ではないものをつくって、やっぱりあなたたちはプロモーションが足りなかったから評価 1 ですよねと言って、それだけにしてしまうのか、もう少しこうしたらいいんじゃないか、ああしたらいいんじゃないかというところというのは、市と指定管理者の人たちと一緒に協賛したのかどうかというところを教えていただきたいなと思いました。

【事務局】 一応、昨年度の評価を受けて、プロモーションが足りないとかいうこともありますし、先ほどご意見も出ました周辺との関連、絡めたイベントを組んでいかなきゃいけないということは重々承知しております。それを踏まえて、タワーの指定管理者と私ども事務局レベルで、イベントを仕込むときにも協調してやっているつもりでありますし、プロモーションをかけられる部分であれば、例えば市が行う事業のほうにタワーの広報をかけたとかしているという事情はあります。それとあと、利用促進協議会という組織の中で、タワーに事務局を持っていただきまして、周辺とタイアップしたイベント事を企画・運営していることも事実としては、実績としては残しております。ただ、アンケートは、確かに回収方法とかそこまで形として行き着けていないところにつきましては、当方といたしましても不備だと感じておる部分でございますので、引き続き指定管理者と何とかうまく調整をとりながら、少しでも効果のある方向に話をもっていきたいと考えている次第でございます。

以上です。

【委員】 アンケートの結果のところ、誰と来ましたかというグループ分類のところでも、恋人 536 人、18%と書いてあるんだけど、それはやっぱり 18%というところを、恋人の聖地というのをつくったんだからどうやって伸ばしていくかというのをしっかりと話し合う必要があるんじゃないかなと思います。で、やっぱりそれが効果がなければ、どうしたらいいのというところまでしっかりと話し合っていくべきだと思います。あんまり去年と変わっていないんじゃないかなって、この報告書自体が。

【部会長】 はい、どうぞ。

【委員】 一番大事なのは、やっぱり目的だと思うんですね。何のために来たのかという、それだけ聞けば、例えば恋人同士で来たというのが、恋人の聖地を見に来たという目的がうまく結びつけば効果があったということになるんでしょうし、多分目的、何のために、イベントに来たのか、たまたま来たのか、高いから来たのか、目的が多分一番大事じゃないかなと思うんですね、何でもそうですけれども。観光というのは多分何のために来たのかという、せめてそれだけでも入れておけば、大分分析が広がっていくんじゃないかなと思うんですね。

それと、なぜそれを言うかという、これは決していじめるわけではなくて、ちょっとほかの件でもう 3 年ほど満足度調査というのをやっています、大変効果的なんですね。施設がそれぞれそれを見て、自分たちの評価で自分たちをどう直していくかという非常にいい方法で、最初はすごく心配していたんですけども、結構うまく機能しているというのがあったんですね。ですから、逆に積極的にやることによってどんどん生かしていくということを考えるという意味で言っているわけなんですけれども、何も、悪いところをどんどん出していないんじゃないかということじゃなくて、それをどんどん改善する 1 つのステップとして使えるようなアンケートをやっぱりしたほうがいいんじゃないかなということでは言わせていただきます。

それからついでに済みません、もう 1 つは、千葉市の観光がこの 20 年どうだったかという、その中でここがどうだったかという評価も市のほうではする必要はないかなと思うんですね。目的が変わってきたとか、まあもっと言えば増えたか減ったか、千葉市の観光がふえたか減ったかというのがまず基準になって、その中でポートタワーが減っていれば、これはちょっと何か問題があるなど。あるいはそこでも善戦していれば、これは頑張っているなということですね。そういうふうな評価も、これは次のユース・ホテルも同じなんですけれども。それから、千葉市の観光目的が変わってきたという中でポートタワーが増えてきた、減ってきたとか、いろいろ多分そういうところからも、今度は逆にポートタワーのほうを戦略的に使えるんじゃないかなというように、まあ千葉市、あるいは千葉県かもしれませんが、そういう評価も 1 つ、これとは別かもしれませんが、あったほうがよいかなという気がしました。

【部会長】 そこでちょっと、もうこれで私は最後にしますけれども、このアンケートに関連してですけれども、対照一覧表で、事業計画では、「すべての入館者を対象として、本施設において提供するサービスの評価等に関するアンケート調査を実施する。また月ごとに実施されたアンケートの結果を集計し、集計した結果及び結果についての分

析・評価等を記載したアンケート調査結果報告書を市に提出する。」と。すごくアンケートを活用しましょうよというような計画であったかと思うんですが、先ほど、まず集計数が全然説明できないずれが生じているので、突っ込んだ議論にはならなかったんですが、評価1とされた理由はどこなんですか。どうもこの評価1の説明を見ると、回収率だけがということが、何が評価1につながったところなんですか。

【事務局】 済みません、結局のところ、回収率が悪いというのはもちろんなんですけれども、あと、昨年度の評価委員会の中で方法を見直したほうがいいよという話をいただいております、それを受けて、私どものほうから指定管理者のほうにもそれをかけ合った経緯はあるのですね。その中で、結果的に方法自体も改善されていないという部分を含めて評価を1とさせていただいている次第でございます。

【部会長】 うん、評価1としたのがそういう理由だとすれば、この評価の視点のところを、評価は良好であった、これはもう1につながるんじゃないかと逆の方向でしょう。従業員による聞き取りも実施した、これも逆の方向でしょう。だけど、回収率はほぼ前年並みだということで、マイナスにつながるのは回収率だけ。そうじゃなくて、評価1にしたのはこういう理由なんだというのを書きかえたほうがいいんじゃないんですか。

【事務局】 評価の視点の中の視点という項目のところ記述を直したほうがいいということですね。

【部会長】 はい。

【事務局】 はい、要するに回収率が悪いという話と方法が改善されていないということを入れたほうがベターでしょうということですね。

【部会長】 というふうに思います。

【事務局】 わかりました。

【部会長】 それで、ほかにご発言ございますでしょうか。

【委員】 去年、ポートタワー単体では、周りの環境、交通事情だとかそんなことも含めて、いろいろと周辺の事情がよくなるとポートタワーの実績が上がってこないんじゃないかというやりとりがあったと思います。今のポートタワーの周辺の状況というのは、去年に比べてどうでしょうか。

【事務局】 それは交通の面ですか。

【委員】 交通の面だけじゃなくてもいいですけども。バスの便が増えたとか。

【事務局】 いや、バスの便も特に増えてございませんし、あの周辺、栈橋の整備は進んできておりますけれども、残念ながら、飲食、物販等の商業施設などが立地しているという話は進んでおりませんので、周辺の状況的には何ら変わっておらないというのが現状だと、冷静に分析すれば、そういう状況だと判断します。

【委員】 それに対して千葉市はどうしようと思っているんですか。

【事務局】 集客観光という観点で言わせていただくと、ご存じのとおり、栈橋が今建設中ということもございまして、海からの千葉市へのアプローチという部分をどういうふうに皆さんにお知らせしたらいいかということで、1つポートパークを使ったイベント事なども計画しながら、ここら辺の地域の活性化に向けた取り組みもしていきたいというふうに考えています。これは年度内にそういうものができればというふうに考え

てございます。

【事務局】 多分、ここに栈橋ができるのが年度でいくと 27 年度ですね。28 年の 3 月に 1 本目の栈橋が完成すると。それに合わせて栈橋のつけ根の旅客船ターミナル、このほうは我々の所管ではないんですが、市の都市局のほうで、これから民間事業者の募集の提案を行うような形になっております。で、完成は栈橋の竣工と合わせてそういった施設もでき上がると。ハード面はそういう形になるんですけども、当然そういうものをにらみながら、これからやはり港をいかに、市民はもとより県民そして国内にもアピールしていかなきゃいけないということと、それからもう 1 つは、ポートタワーを含め、あそこには県立美術館もございます。それと広いポートパークもあるので、その辺を含めた一体的な利活用もやはり今後検討していかなきゃなりませんし、やはり将来的にはポートパーク自体の管理権のほうも港湾と一体、栈橋と一体となって千葉市がいろいろな面で活用できるような方向にもっていくことが望ましいんじゃないかというふうに考えています。その辺は、ちょうど栈橋のタイミングと軌を一にするように新しい千葉市の実施計画というのが 27 年度からスタートするんですけども、この辺は庁内協議をやりながら、その実施計画の中に今私が申し上げましたような方向でさまざまな事業が進むように、庁内調整等、あるいは県との調整といったものやっけていきたいなというふうに考えております。

【部会長】 それでは、一応発言はこれまでということにさせていただきますして、意見がどこまでなのか、明確ではありませんけれども、とりあえず事務局で取りまとめていただくということで、休憩をとりたいと思いますが、何分ぐらいにしましょうか。

【事務局】 じゃあ、10 分ほどいただけますでしょうか。じゃあ、時間で 3 時 20 分再開ということによろしゅうございましょうか。お願いいたします。

【部会長】 はい、お願いします。

(休 憩)

【部会長】 それでは再開いたします。

取りまとめた意見案について事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、意見案についてご説明をいたします。

まず、意見を申し上げます前に、さまざまただいまご指摘を頂戴いたしまして、特に市のモニタリングの方法ですとか、あるいは市の、業者からのヒアリングの内容等、十分にできなかった点が多々ございます。この辺に関しましておわびを申し上げますとともに、確認し次第、状況につきましてはご報告を申し上げます。

今回の意見案につきましては、指定管理者に対します意見ということになりますので、今申し上げました市のヒアリングの方法等については、この意見案のほうには反映されないということであらかじめご承知おき願えればと思います。

それでは、意見案について申し上げます。

おおむね良好な管理が行われているが、アンケートの実施方法や内容などに、昨年度の指摘が生かされていない事項も見受けられることから、一層の改善を図るよう要望する。また、イベントの実施に当たっては、市や周辺施設などと連携し、さらなる集客に結びつくような取り組みを期待する。

以上でございます。よろしくお願ひいたします。

【部会長】 今取りまとめていただいた意見案ですけれども、何かご意見等がありましたらご発言をお願いいたします。

もしご発言がないようであれば、今のご報告を受けました意見案のとおり、千葉ポートタワーにおける指定管理者による施設の管理運営に関して、当部会における意見ということで決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【部会長】 じゃあ、異議なしということで決定いたします。千葉ポートタワーについては以上です。

次に、議題(3)に移りまして、千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場における指定管理者年度評価に関する事項についてに入ります。

事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 それでは、千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場指定管理者の年度評価についてのご説明をさせていただきます。

まず、お手元の資料として、指定管理者評価シートのご用意をお願いいたします。

評価シートにつきましては、平成24年度事業報告書、そして毎月の月次事業報告書及び年3回のモニタリングをもとにして作成しております。

初めに、基本情報でございますが、施設管理者は株式会社塚原緑地研究所、指定期間は平成23年4月1日から平成26年3月31日までとなっております。

2の管理運営の実績についてでございます。(1)主な実施事業は、施設管理業務、維持管理業務及び食堂運営、物品販売などの自主事業でございます。

(2)利用状況でございますが、ユース・ホステル宿泊者数は4,244名、目標達成率は104.3%、前年比では109.3%となっております。昭和の森キャンプ場利用者数は1万6,479名、目標比は126.8%、前年比97.7%となっております。ユース・ホステルの稼働率は20.5%、前年とほぼ同程度となっております。

(3)収支状況についてでございますが、①利用料金収入は、計画比112.3%と、計画予算を達成し、自主事業収入では98.7%と、計画を若干下回っております。収入合計としては101.6%でございました。②支出でございますが、人件費及び自主事業費が増えたものの、支出全体では100.5%と、おおむね計画どおりでございます。収支実績は約155万円の黒字を確保しているところでございます。

次ページをお願いいたします。(4)指定管理者が行った処分件数でございますが、千葉市ユース・ホステル設置管理条例第8条に基づく使用許可463件でございます。

(5)、(6)の市への不服申し立て及び公文書開示請求はいずれもございません。

3、利用者ニーズ・満足度等の把握について、①アンケート調査の結果についてでございますが、212人から回答が得られました。集計方法は、指定管理者が受け付け時に代表者等へアンケートを依頼し、鍵の返却時に回収しているところでございます。また、アンケートの質問項目については下記のとおりでございます。②結果として、利用満足度は、満足、やや満足が計80%、施設の清掃状況は、清潔という部分で70%、従業員の対応は、よかった、まあまあよかったが合計92%となっております。③アンケートによ

る意見、苦情への対応については、建物自体が築30年になるため、多額の改修費を要するものが増えてきております。ご指摘いただいた事項に対しては、可能な限り迅速に対応、検討しているところでございます。

(2) 市に寄せられた意見、苦情はございませんでした。

4、指定管理者による評価でございます。施設運営に関しましては、利用者の増加、利用料金収入の増加が見られた。ホームページ、市政だより、パンフレット等を活用し、情報発信に努めた。保守管理・清掃等を確実に実施し、修繕・施設整備を実施した。具体的には、ロビーカーテンの設置、危険木の伐採などキャンプ場整備を行っております。さらに、里山学校、婚活、音楽会、環境学習、ユース・ホステル祭り等の催しを開催した。運営懇談会を開催し、利用者、市民等の意見の反映に努めているなどの報告を受けているところでございます。

5番目、市による評価でございます。まず、履行状況の確認状況についてですが、次ページの別紙A3判の資料、指定管理事業対照一覧表でご説明をさせていただきます。

(1) 市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理でございます。①関係法令等の遵守(個人情報)では、管理運営基準及び事業計画提案書に従いましてみずから個人情報保護規程を策定し、また、個人情報取扱業務書の作成、その他いずれの項目も計画どおり実施されていることから、2の評価をいたしました。

②行政手続では、マニュアルを作成し実行されていることから、2と評価させていただいております。情報公開規程及び文書管理規程の策定は計画どおり策定されており、また、職員の周知についても、市のモニタリング等により適正と認められたところから、いずれも2の評価をさせていただいております。

(2) 市民サービスの向上でございます。①利用者サービスの向上について、職員に対するOJTの実施については、事業計画どおり実施されていることから、2の評価をさせていただいております。次に、アンケートの実施について、満足度はやや増加したものの、清掃状況及び従業員の対応についてはほぼ横ばいのため、2の評価をさせていただきました。

②利用者の支援についてでございますが、予約受付の公平性、障害者、高齢者への支援、消防署で開催する救命講習の受講状況、緊急時の連絡体制のいずれの項目も計画どおり行われているので、2の評価をさせていただきました。

(3) 施設の効用の発揮、施設管理能力、①の利用促進の方策でございますが、パンフレット、チラシでの周知においては、スーパーやコンビニなどに配布範囲、方法の拡大に努めているということから、3の評価をさせていただきました。ホームページの活用においても、イベントリポートをブログに掲載するなど積極的な情報発信に努めているため、3と評価させていただいております。さらに、雑誌等への掲載も、市政だよりのみならず民間誌やユース・ホステル誌への掲載を実施したため、3と評価いたしました。

②自主事業の効果的な実施についてでございます。環境学習やユース・ホステル祭りなどの計画どおりのイベントのほか、婚活や音楽会などを積極的に実施しております。さらに、イベント参加者からのヒアリング、運営懇談会を開催し、より集客につながる

自主提案事業の実施に努めているため、3の評価をさせていただいております。

(4) 管理経費の縮減について、①支出見積の妥当性でございます。計画比 100.5%とおおむね計画どおりであるため、2の評価をさせていただきました。

②収入見積の妥当性についてですが、利用料金収入は計画比 112.3%と、計画を達成し、さらに前年度と比較しますと 104%増でございますので、3と評価させていただきました。また、自主事業収入は計画比 98.7%と計画未達成ではございますが、前年度と比較して 122%となるため、2の評価をさせていただいているところでございます。

③収支状況でございます。おおむね計画どおりであることから、2の評価をさせていただきました。

以上によりまして、市の評価としては、自主事業は目標未達成ではございますが、利用者数及び利用料金収入は計画を達成し、黒字となっております。また、アンケートで多数の満足の評価を受けていることから、おおむね良好に管理運営が行われていると判断いたしまして、評価をAとしたところでございます。

なお、千葉市ユース・ホステルについてでございますが、来年、平成 26 年 3 月末をもって廃止という方針になっており、9 月 6 日から開催をされます市議会において廃止の条例案を提出する予定でございます。このユース・ホステルでございますが、青少年の健全な旅行を奨励し、低廉な経費で規則正しく宿泊させ、または交歓させる、こういった施設として昭和 58 年 7 月に設立され、当初は相部屋での宿泊や宿泊者全員でのミーティングなど、宿泊者同士の交流を図る取り組みを行ってまいりましたが、ニーズの変化等により、現在はこのような運営は行われておりません。年間宿泊者数はピーク時の昭和 63 年度には 8,000 人を超えていましたが、現在はその約半分の 4,000 人程度というふうな状況でございます。そのうち、青少年団体や部活動の合宿といった団体利用が約 8 割を占めておりまして、個人、家族での利用は 2 割程度にとどまっているところでございます。指定管理者へ支払っている委託料は、年間約 4,000 万円となっております。また、築 40 年が経過し、施設が老朽化しているため、今後、施設を維持するために約 1 億 7,000 万円の改修費が必要だというふうな見込みもございます。このように、当初の事業目的が薄れてきている中で、本市として多額の費用負担を継続しながらユース・ホステルとしての運営を続けていく必要性などを検討し、現在の指定管理期間を通常の 5 年から 3 年間として、この間、あり方を検討してまいりました。その結果、今年度末をもって廃止の方針となった次第でございます。

なお、廃止後の跡施設の利活用につきましては、一昨年度に本市の各部署における活用を検討し、文化・教育関連の施設としての活用なども候補として挙がりましたが、利用者ニーズなどの点から実現化には至っておりません。今後は、民間事業者による有効活用を図っていくため、昭和の森公園を管理しております都市局公園管理課において事業者の募集を行う予定でございます。ユース・ホステルの跡施設やキャンプ場の改修、運営維持管理の全てを自己費用で行っていただくなどの条件が付される予定でございます。10 月下旬から 11 月中旬にかけてこの提案を受け付けて、12 月に外部の学識経験者などによる選定委員会でのプレゼンテーション、ヒアリングなどの審査を経て、今後決定する予定になってございます。なお、平成 26 年度は改修工事、平成 27 年 4 月からの

供用などのスケジュールとなっているところでございます。

説明については以上でございます。

【部会長】 ただいまの説明に対しまして、何か質問、ご意見等がありましたら、発言をお願いいたします。

先ほどのポートタワーと同様、意見については、部会の意見ということで事務局において取りまとめていただく関係で、意見であることをなるべく明確にしてご発言くださいますよう、よろしく申し上げます。では、発言、どなたかお願いいたします。

じゃあ、今の評価とはちょっと関係のない質問になりますが、事業年度、指定期間が26年3月31日までなんですけれども、この委員会の評価というのはどうなるんですかね。25年度の評価もやるんですか、それとさらに総合評価もやることになるんですか。

【事務局】 それは手続上なんですけれども、廃止されます施設につきましては、一応、市での評価というのは最後に行いますけれども、委員会での評価というものにはかからないということでございます。

【部会長】 わかりました。

本題に戻って、先ほどの説明についての質問がございましたら、お願いします。

じゃあ、先ほどポートタワーで質問したところと関連しますけれども、評価シート3ページの確認事項(4)管理経費の縮減というところで、「支出見積の妥当性」、「収入見積の妥当性」というこの見積もりの妥当性ということタイトルにし、で、小項目では計画どおりに予算が執行されているか、計画どおりだったかというように、計画に沿っているかどうかというような、ずれが少なかったかどうかというような、見積もりが正しかったかどうかというような捉え方をされがちなんですけれども、評価3をいただいているところの、計画を大きく上回った、つまりずれの幅がプラスの方向で大きかったわけです。こういうように、じゃあ逆に見積もりが失当であった、妥当ではなかったというようなところにつながりがちなので、ちょっと私がほかのところもこの言葉を使ってやっていますということなんでしょうけれども、全部かえるわけにはいかないのでしょうかということを改めて質問させていただいておきます。

それと、市による評価、同じページですけれども、最初の行に「利用者数の増加、利用料金収入の増加がみられ、」ということなんですけれども、これでよろしいのか。つまり、前年度比だと思うんですが、前年度比はまさに地震等のあった年で大幅に下がっていて、ポートタワーについてはその前年度の22年度に戻れるかどうかを利用者数、利用料金収入について議論しているのにも関わらず、増えました、前年度比でということよろしいんですかね。何か隠されているというか、もうちょっと前年度比というような言葉が少なくとも要るんじゃないかというふうな気がします。

【事務局】 よろしいですか。ユースの宿泊者の人数の推計をお話ししますと、3.11があったのは22年度でしたよね。で、それ以前の20年度、21年度の数字を申し上げますと、20年度が3,559名、21年度が3,949名なんです。22年度末、震災があって3,621と落ち込んでいるんですが、その震災前の数字と比べても24年度、今年度は4,244ということで、上回っているという判断でこの配点をしているところでございます。

【部会長】 震災による利用者数の落ち込みは何年度で見ているわけですか。

【事務局】 22年度ですね。22年度に3,621に落ちているんですね。

【事務局】 23年3月の地震になるので、23年度も落ちています。

【部会長】 シート1ページで見ると、利用状況の利用者数は23年度比でわずかですかね。109、ユース・ホステル、昭和の森。ユース・ホステルは数字で言うと9.3%プラス、昭和の森はマイナスですよね。で、その合計が2万723人。前年度は2万746人、23人のプラスというふうな数字になるんですけども。

【事務局】 ただいまのご質問にお答えする間に、先ほどの1点目のご指摘のほうなんですけれども、評価シートのほうの項目の名称の件なんですけど、先ほど申し上げましたとおり、全庁的に使われているものですので、この場ですぐに変えるということは申し上げられないのですけれども、全体の事務を担当しております業務改革推進課でございますが、こちらのほうに委員会でこういった意見があったということを経理局のほうから申し伝えたいと思いますので、それでご了承願えればと思います。よろしくお願ひします。

【部会長】 はい、よろしくお願いします。

【事務局】 先生がご指摘のとおり、最終的に評価の部分で前年度という言葉を使っているのですけれども、前年度という観点で捉えた場合には、比較対象としては、そういう意味で言えば、それほど増えているわけではないようなことにはなるかと思ひます。まあ、もともと23年度は震災があったということになりますので、ちょっと比較対象にはならないかなと思ひますが。ちなみに、22年度ですと、ユースの部分ですけれども、こちらが宿泊者が3,621人ございました。それから21年度は3,949人、いずれも24年度の4,244人は当時よりも多い、24年度は数字的には今回確保できているというところでもって、評価のほうはさせていただいたところがあるかと思ひます。単に前年だけというわけにはいかないかと思ひます。

【部会長】 はい、わかりました。今と同じような数字、昭和の森の利用者数、すぐ出ますか。

【事務局】 はい、24年度が1万6,479人ございまして、23年度が1万6,864、22年度が9,772です。それから21年度が1万1,004です。ですので、大変増えていることは事実です。

【部会長】 はい。

急に話は変わりますが、着実に伸びている、数年間にわたって、これを廃止するというのはどういうふうに整合性を保つんですか。

【事務局】 このところは、先ほどもちょっとご説明させていただいたんですけども、やはり事業目的というんでしょうか、これがだんだん利用者のニーズと、ユース・ホステルというシステムとの間で合わなくなっている。それから、実は低廉な価格でということ料金設定もしておるのですけれども、近隣でも大変安い施設が出てきているのが実態でございます。それから、稼働率についても、大体20%前後で推移をしております、そこら辺の部分も考え合わせますと、市が維持管理していくユース・ホステルというところは、今後、費用負担を考えると、というところで、あり方を3年間検

討させていただいたというところがございます。

【部会長】 はい、大変意地の悪い質問によく答えていただきまして、ありがとうございました。

ほかに発言ございませんでしょうか。

【委員】 ちょっとよろしいですか。財務諸表の最後の投資管理条例の前の前のページ、「千葉市ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場収支報告書（平成24年度）」管理運営業務のところですが、一般的に、いろいろなこういう収支報告書を見てきた結果、管理費の項目の予算額と実際の支出額というのは相当変動があるのが普通で、いろいろ前年実績に沿った予算をラウンドして立てても、決算額というのは現状、費用がかさむとそれを削減して、そこで予算との差額を捻出するものになり、この場合も小計で156万4,000円という形で出してきた、こうなりがちなので、どんな収支報告書も大体こういう形になるものなんです。管理する市の側としてヒアリングするときに、またはこれで十分かという目線で、意見としては、そういういつも調整項目になりがちのところを毎年見ているわけですから、これは十分か、こういう問題は大丈夫なのかという視点で、特に減少したときにヒアリングを強化して、それじゃあ、今はもう終わっているから、次期、この後どうなっているかということを中心に管理項目として強化していただきたいなと思います。それはここだけじゃなくてね。

【事務局】 はい。

【部会長】 ほかに発言がなければ、今出た、意見があったのかどうなのかということも含めてまとめていただきたいと思います。休憩時間をとることになるわけですね。

【事務局】 それでは、10分ちょっとということで、4時5分まで時間をいただけますでしょうか。よろしくお願いいたします。

【部会長】 はい。よろしくお願いいたします。

（ 休 憩 ）

【部会長】 予定より早いですが、再開いたします。

取りまとめた意見案について事務局より説明をお願いいたします。

【事務局】 まず、ご指摘をいただきました修繕費等が計画と決算額が変わっていたりということのあたりなんですけれども、こちらのほうは市の事業者に対するヒアリングといたしますか、事情の聴取ということになりますので、今回のご意見案の中には触れませんが、今後、この施設に限らずなんですけれども、施設管理をするところで決算額、予算額大きく変わっているもの等がありましたら、その内容が計画と違っていることについて十分だったのかというあたりを中心に事業者の説明を聞いてまいりたいというふうに思っております。また、その結果につきましては、委員会の中でご報告できるような形で、十分ヒアリングに関しまして工夫をしてまいりたいと思いますので、ご了解願えればと思います。よろしくお願いいたします。

それから、指定管理者に関する意見なんですけれども、利用者の面で、24年度の目標値はユースと昭和の森ともに上回っておりますので、意見案といたしまして、ユース・ホステル、昭和の森キャンプ場ともに、利用者数が目標値を上回るなどおおむね良好な管理運営が行われていたということで、こちらを意見案にしたいかと思っております。よろし

くお願いいたします。

【部会長】 今の説明につきまして何かご意見があれば、発言してください。

ないようであれば、今、事務局より説明いただいた意見を当部会の意見として決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【部会長】 異議がないということで、当部会の意見ということで決定させていただきます。

千葉県ユース・ホステル及び昭和の森キャンプ場については以上です。

なお、本日、部会として決定いたしました意見の文言の整文等については、私にご一任願います。

以上をもちまして、平成 25 年度第 1 回千葉県経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会を閉会いたします。

それでは、事務局に進行をお返しいたします。

【事務局】 ありがとうございました。

委員の皆様、大変お疲れさまでございました。それでは、幾つか事務連絡を申し上げます。

まず、本日の議事録を作成する関係でございますが、後日、皆様に内容のご確認をお願いする予定でございます。案を作成し次第、事務局よりご連絡いたしますので、ご協力のほどをよろしくお願いいたします。

また、常任委員の皆様は、次回第 3 回産業部会が 10 月 30 日水曜日に開催されますので、ご予約のほうをよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして平成 25 年度第 1 回千葉県経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会を終了いたします。長時間にわたりまして大変ありがとうございました。